

四国8の字ネットワークの整備促進

政策提言先 国土交通省

政策提言の要旨

「四国8の字ネットワーク」は、近年、激甚化する豪雨災害や切迫度の高まる南海トラフ地震に備える上で不可欠な基盤であり、県内の救急搬送を支える国道55号、56号のリダンダンシーの確保や速達性の向上に大きく寄与する「命の道」です。

本県では、「若者が誇りと志を持って働ける高知県」の実現を目指して、販路の拡大による地産外商の強化や新たな観光拠点の整備による観光誘客などの取り組みを進めています。四国8の字ネットワークは、こうした経済活性化の取り組みと一体となって、商圈や交流人口のさらなる拡大等、より大きな効果を地域にもたらします。

このため、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等により、整備に必要となる予算を当初予算で確保し、安全・安心な暮らしを支え、地域経済活性化の要となる「四国8の字ネットワーク」の整備を早急かつ計画的に進めていただくよう提言します。

【政策提言の具体的内容】

安全・安心な暮らしを支え、地域経済の活性化に不可欠となる

「四国8の字ネットワーク」の整備は急務であり、以下の項目を提言します。

1. 事業中箇所¹の早期開通

早期の開通により、地域に様々な効果がいち早くもたらされます。

【早期開通に向けた整備促進、補助事業箇所の予算確保】

- 四国横断自動車道：窪川佐賀道路、佐賀大方道路、大方四万十道路、宿毛内海道路（宿毛新港～一本松）
- 高知東部自動車道：南国安芸道路（高知龍馬空港～香南のいち、芸西西～安芸西）
- 阿南安芸自動車道：海部野根道路、野根安倉道路（直轄権限代行）、奈半利安芸道路（安田～安芸）、安芸道路、北川道路1工区及び北川道路2-2工区（補助事業費の確保）

2. 計画段階評価完了区間の早期事業化

高速道路ネットワークの構築により、整備効果を最大限発揮することが可能となります。

- 四国横断自動車道：宿毛和田～宿毛新港
- 阿南安芸自動車道：奈半利～安田

3. 「高速道路における安全・安心基本計画」に基づく暫定2車線区間の4車線化の着実な実施

暫定2車線区間の4車線化により、安全で安定した利用の確保と災害への備えが高まります。

- 高知自動車道：土佐PA～須崎東

【政策提言の理由】

◇ 四国横断自動車道「宿毛内海道路（宿毛新港～一本松）」及び阿南安芸自動車道「奈半利安芸道路（安田～安芸）」の新規事業化は、四国8の字ネットワークの整備の加速化につながるものであり、心より感謝を申し上げます。

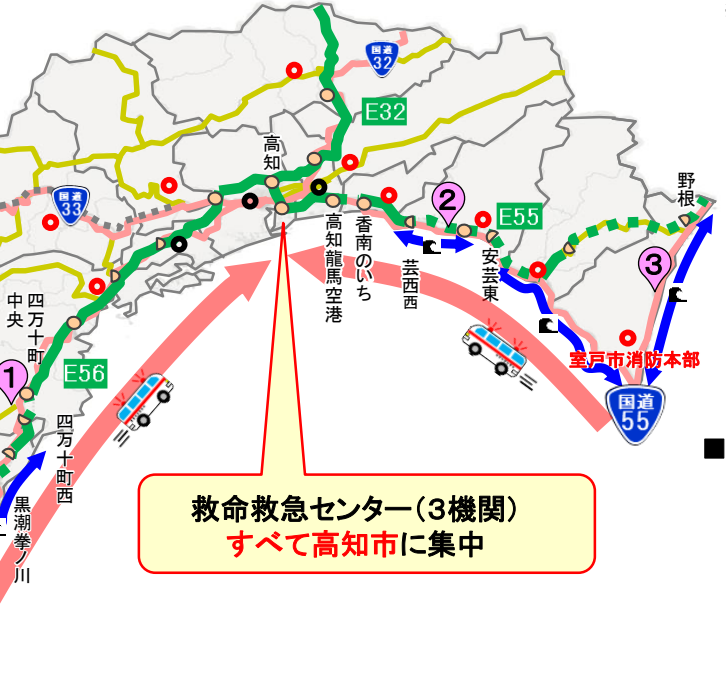
◇ 四国8の字ネットワークは、大規模災害時の生命線となり、安全・安心な暮らしを支えるとともに、地域経済の活性化に不可欠な基盤であることから、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等により、整備に必要となる予算を当初予算で確保したうえで、早急かつ計画的に整備が進められるべきと考えます。

四国8の字ネットワークの整備促進【安全・安心な暮らしを支える！】

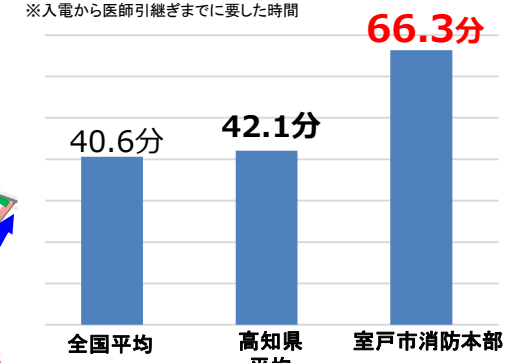
四国8の字ネットワークは「県内の救急搬送を支える」命の道

●救急搬送の実績(令和2年)

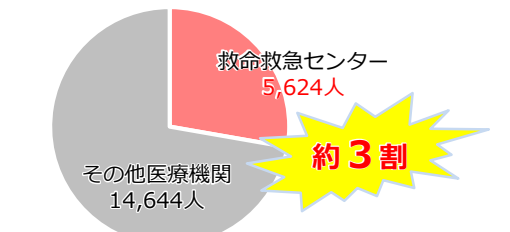
- 8の字ネットワーク(整備済区間)
- 8の字ネットワーク(未整備区間)
- 直轄国道
- 補助国道
- 津波浸水想定区間
- 8の字ミッシングリンク区間
- 消防本部等
- 消防本部等
- 主なIC



■令和2年の病院収容所要時間



■令和2年の救急搬送人員(高知市除く)



●県内の救急搬送を支える国道55号・56号の課題

1 車両事故による全面通行止め

災害や事故等による規制により
たびたび渋滞が発生

2 対向車線を通る救急車両

3 豪雨による土砂崩れ



●8の字整備による効果(リダンダンシーの確保)



中村宿毛道路により路面冠水箇所を回避



8の字整備 ダブルネットワーク構築によりリダンダンシーを確保し地域間交通を維持することで県内の救急搬送を支える

被災から明らかとなった4車線化の重要性「災害への備えを高める」

●【被災】平成30年7月7日 高知自動車道「立川橋」の流失

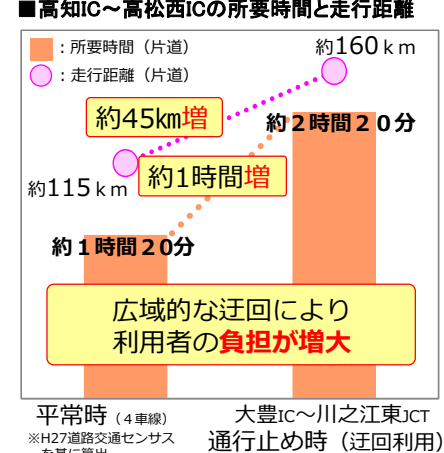


●【6日後】平成30年7月13日 対面通行による通行再開



▲対面通行による通行再開(大豊IC付近) ▲対面通行による通行再開(立川上名付近)

●【約1年後】令和元年7月8日 4車線による通行再開

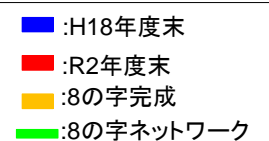


4車線化 通行を確保したうえでの早期の全面復旧作業につながる
早期の通行再開で、広域的な迂回を回避し、利用の負担を軽減

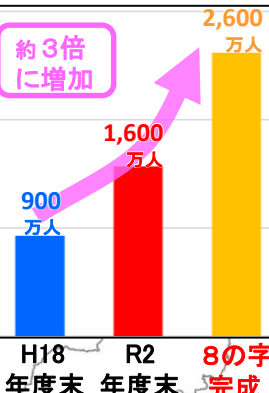
消費圏拡大 関西などの大規模消費圏への輸送を支える

■宿毛市からの消費圏域（6時間圏域）の拡大

●消費圏域の変化



●消費圏域人口の推移



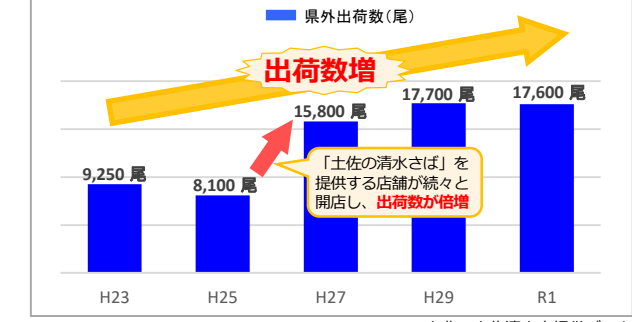
※「8の字完成時点」は、四国8の字ネットワークとR2事業中の直轄国道以上の道路が完成したものととして算定。また、陸路のみ使用したものととして全て算定。R2年度、8の字完成時の人口は、H27年国勢調査結果により算定。

活魚

●遠方への活魚輸送に不可欠な高速道路（高知自動車道）

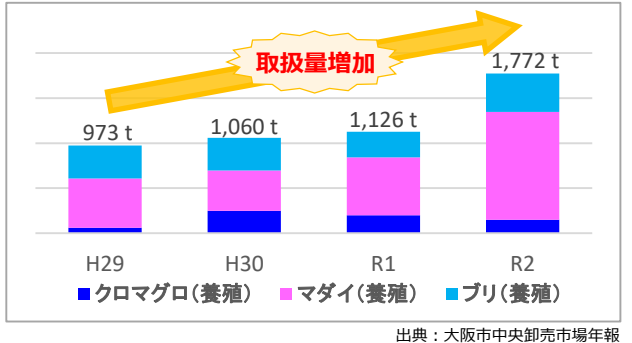


●「土佐の清水さば」の県外出荷数の推移



養殖魚

●県産養殖魚取扱量の増加（大阪市中央卸売市場）



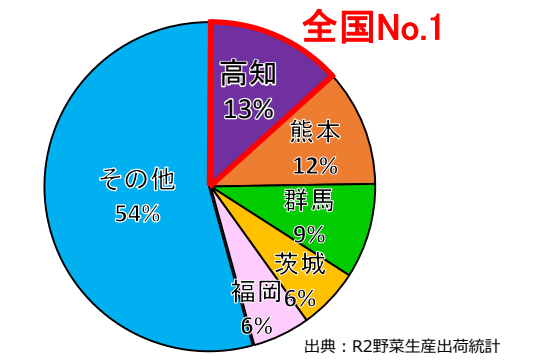
●産地加工体制の強化による生産性の向上（宿毛市）



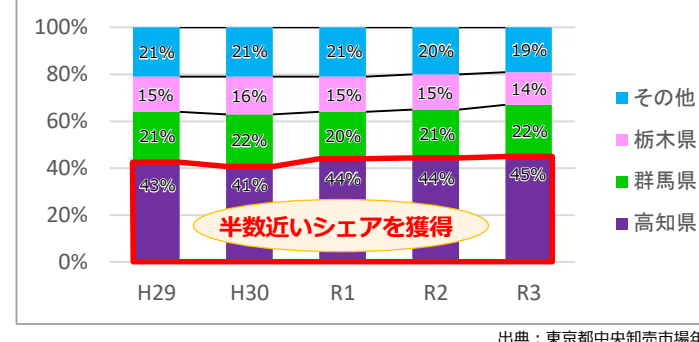
生産拡大 地域の特産物の生産拡大・販路拡大を支える

■県東部地域の基幹産業を支える

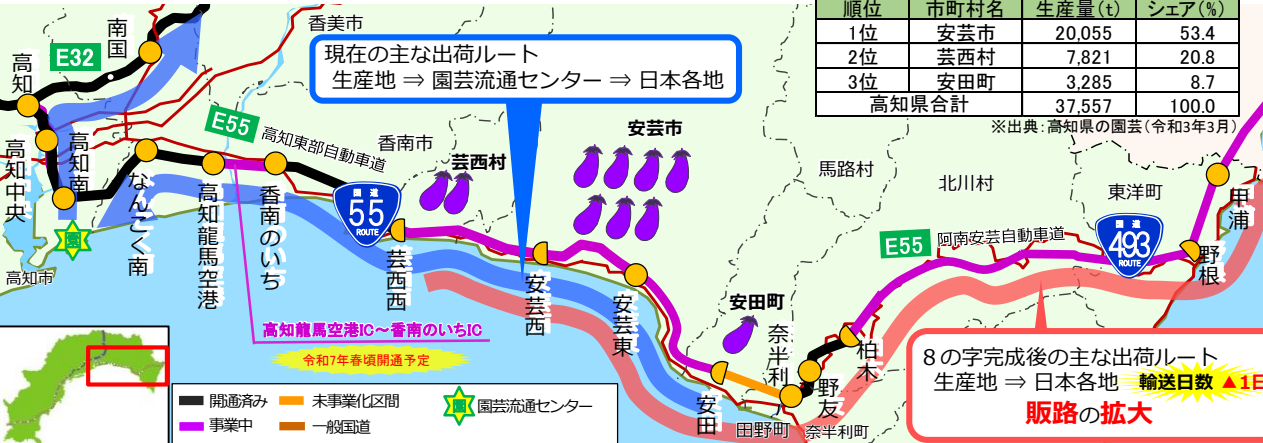
●全国における高知県産ナスの生産量シェア



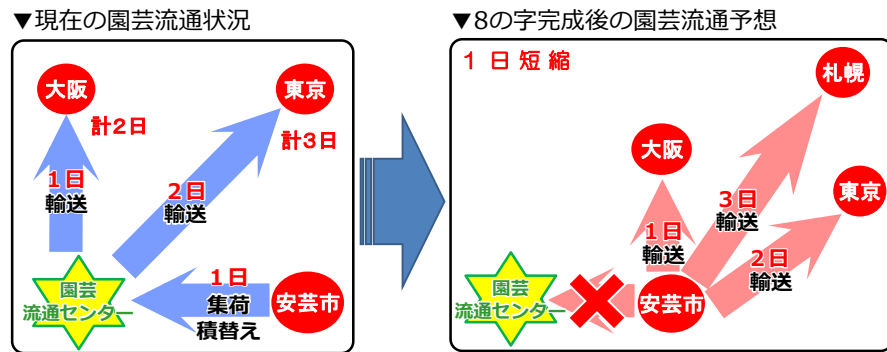
●東京都中央卸売市場における高知県産ナスの取扱量シェア



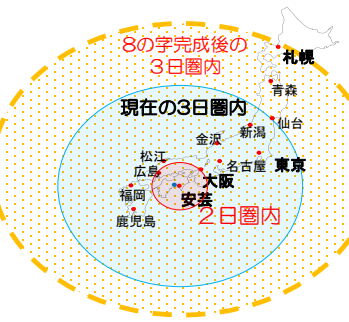
●生産地からの主な出荷ルート



●8の字ネットワーク整備による輸送路の見直し



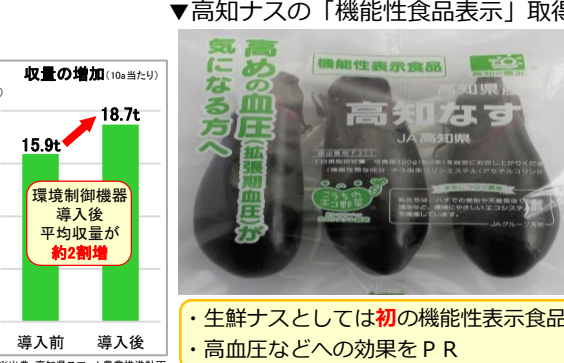
▼販路拡大イメージ図



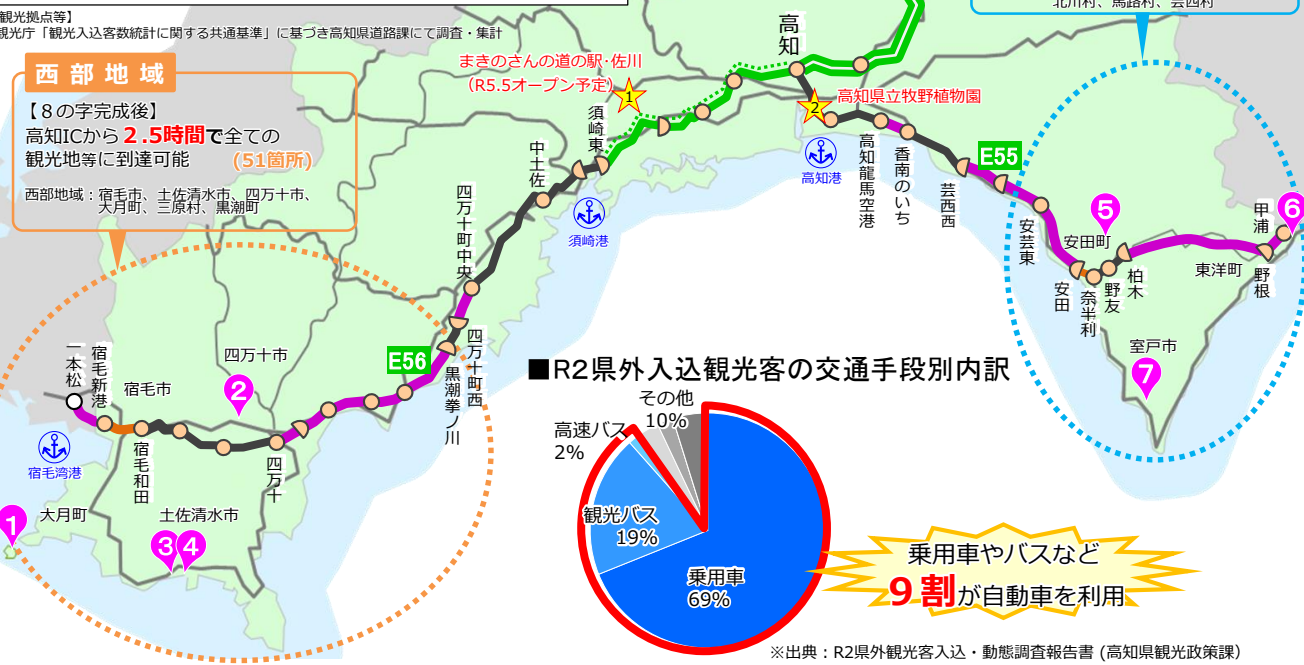
●生産性向上に向けた取り組み



●需要拡大に向けた取り組み



高知県の観光 ウィズコロナ、アフターコロナの観光振興を支える



県出身偉人のTVドラマ化で観光振興を後押し

牧野 富太郎 (1862-1957)
【主な功績】
◆「植物学雑誌」を創刊
→新種に学名付与(日本人国内初)
◆1,500種類以上の植物を命名
◆「牧野日本植物図鑑」を刊行
◆文化勲章受章 など

R5年度前期 NHK連続テレビ小説制作決定

基本コンセプト
「植物が中心にある町」
年間目標入込数 **40万人**
R5.5 OPEN予定

高知県出身の植物学者 **牧野 富太郎**

高知県立牧野植物園
★3,000種以上の植物が四季を彩る
四国唯一の植物園(1958~)

施設の磨き上げ整備
イメージ
4K・VR映像、お宝展示
R1年リニューアル

新研究棟
R5年春オープン予定

入込数目標
20万人
11.5万人
R2 → R6目標

経済力が高まる関西圏との経済連携強化

大規模プロジェクトに向けて
高まる**関西圏の経済活力**

◆R7大阪・関西万博
想定来場者数: 2,820万人

◆大阪IR
想定年間来場者数: 1,500万人

周遊モデルルートの旅行商品化
SDGsに寄与する旅行商品づくり など

本県への誘客促進

関西圏からの入込数
77万人 → 121万人
R2 → R5目標
※出典: 高知県観光政策課推計

435万人観光の定常化と地域への誘客拡大に向けた取り組み

高知の食は、つくる人が熱々。人熱々料理

高知県では「食」の観光キャンペーンを開催中!
山川海の幸の味が美味しいのはもちろん、なによりも食に関わる人たちが熱々!

【開催期間】
令和4年1月1日(土) ~ 令和5年3月31日(木)

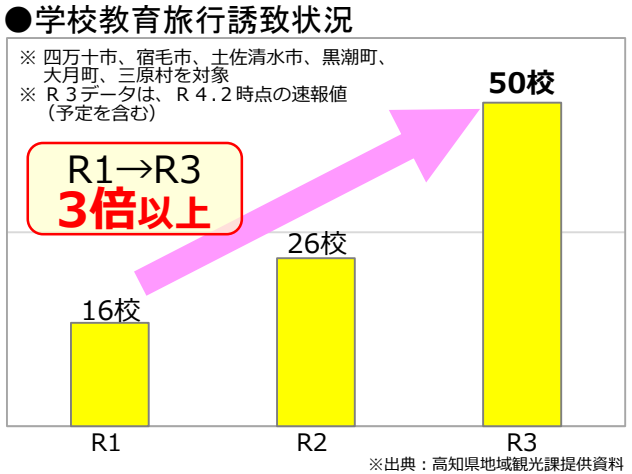
学校教育旅行の誘致拡大 ~西部地域の事例~

1 砂浜のマイクロプラスチックなど漂着物を調査学習
大月町柏島

2 トンボを通じて自然と人との共生のかたちを考える(トンボ自然公園)
世界初のトンボ保護区
四万十市具同

3 足摺地域の生態系を見学(県立足摺海洋館SATOUMI)
R2.7 OPEN
土佐清水市三崎

4 地層や海底生物の痕跡、マグマ活動について学習(土佐清水ジオパーク)
R3.9.25 日本ジオパーク認定
土佐清水市竜串

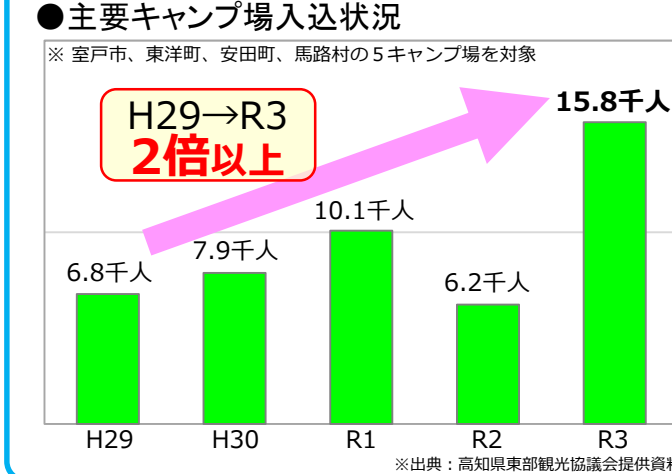


自然体験・滞在型観光の誘客拡大 ~東部地域の事例~

5 アウトドアブランド監修のもとキャンプ場をリニューアル(安田川アコおどる清流キャンプ場)
Coleman 監修! R3.4 RENEWAL
安田町船倉

6 サーフィンの聖地東洋町でのキャンプ利用が好調(白浜キャンプ場)
東洋町白浜

7 世界ジオパークを間近に感じるグランピング施設が新たに整備(MUROTO base55)
R2.2 OPEN
室戸市室津



体験型水産観光商品の開発(室戸市)
県が観光商品の開発をバックアップ!

ガラリマン漁師による水揚げ体験
深海生物漁業体験ツアー
オオグソクムシ
ピン玉
室戸クルージング
「ピン玉」ネットのロープワーク体験

体験観光を多数開催!